

Exa
Value
Forum
2019

基幹業務システム

ActualPRO II [®] がクラウドデビュー

2019年 7月 25日

株式会社エクサ

エンタープライズソリューション部

久保 梨菜

アジェンダ

1. 個別案件の損益管理を支援する*ActualPRO II*®

ActualPRO II のコンセプトと機能構成の紹介

2. 次世代の*ActualPRO*に向けて

解決すべきテーマと目標、計画して開始！

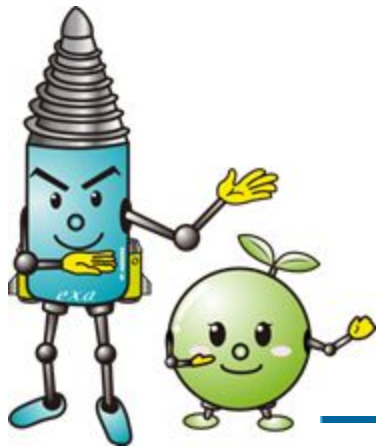
3. プロジェクト開始、そして……

稼働環境改善、クラウドへ、機能充足

4. 乞うご期待

稼働イメージと次のステージへ

※本資料に記載されているロゴ、システム名称、企業名称、製品名称は各社の登録商標または商標です



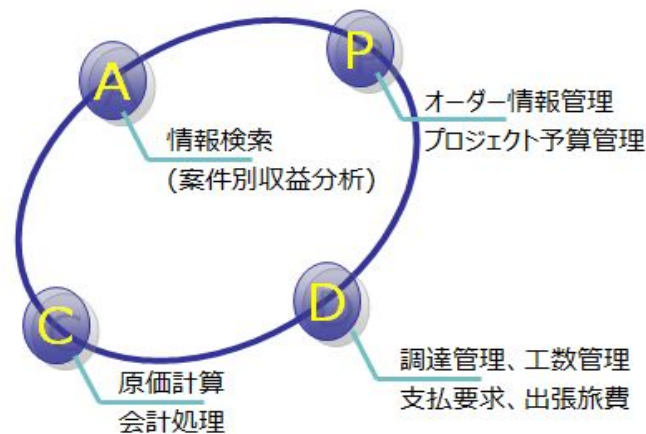
1.

個別案件の損益管理を支援する*ActualPRO II*® *ActualPRO II* のコンセプトと機能構成のご紹介

1. ActualPRO II のコンセプト

ActualPRO II

各マネジメントレベルの管理を支援するしくみを提供し、
PDCAを効率的に回す基幹業務システムを構築できます



導入いただいているお客様の業種

個別受注型損益管理を行う業種の製造・建設・
物流、及びソフトウェア企業様へのご採用いただいています

エンジニアリング	プラント建設、橋梁設営、タンク設営
造船	船舶、鉄構造物
IT	ソフト開発／保守
建設	土木、設計、鉄構造物
不動産	不動産業(注文住宅)
サービス	ビル管理、情報処理

製品 特長

- 1 リードタイムを少なくし、**実績把握がタイムリー**にできます
- 2 事前・事後費用も含めたプロジェクトの一貫した**損益を把握**することができます
- 3 プロジェクトの個々の作業単位（**WBS概念の導入**）で予算・実績の把握が可能です
- 4 管理帳票のために**ビジネスインテリジェンス製品を同梱**、情報検索機能の拡張性を確保しています

1. ActualPRO II のコンセプト

原価管理と発注業務の効率化(業務プロセス確立)

- ・個別受注の損益管理を必要とする業務に適合する仕組みの導入ができます
- ・発生源入力対応、連携対応により二重入力抑制できます



タイムリーなコスト情報の把握

- ・すべてのインプット情報をタイムリーに収集保管、プロジェクト管理情報として一元管理
- ・月次処理を待たずに、案件別に最新のコスト情報をステータス別に把握できます



原価実績の活用(コスト管理、見積り、将来計画)

- ・情報の一元管理で損益情報や原価集計などデータの分析・追跡が容易に可能です
- ・BIツール活用で、売上・コスト管理と見積りに関する集計・分析機能の充実ができます



内部統制の遵守(セキュリティ強化)

- ・業務プロセスに沿った内部統制を支援(承認、アクセス権限設定、ログ出力)
- ・セキュリティ強化(ログインパスワードの暗号化、有効期限設定)

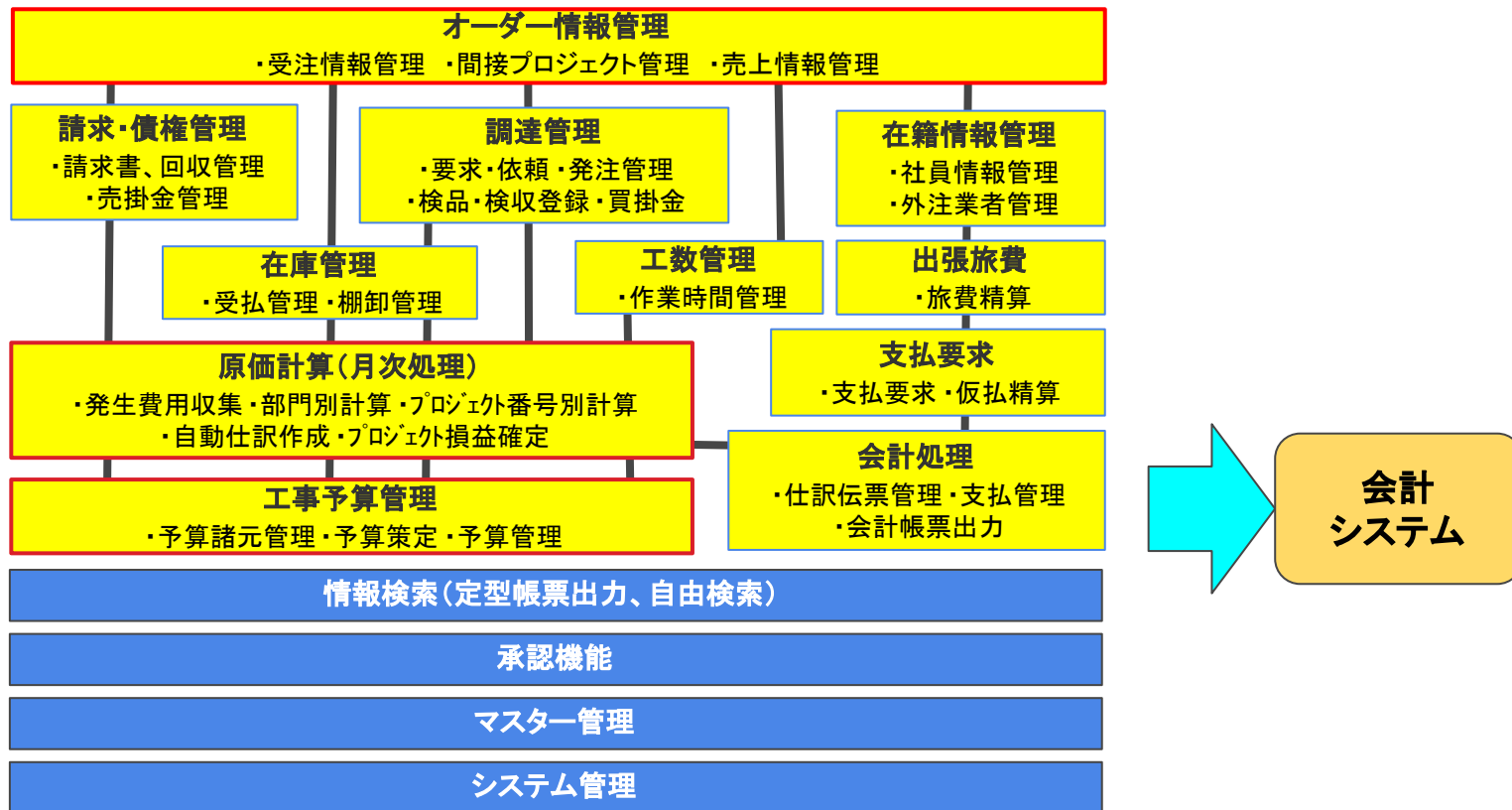


案件別予算管理の実施(管理精度の向上)

- ・案件別の予算と最新コスト情報の比較でタイムリーな予算執行状況の把握ができます
- ・案件別の売上・コスト予測でタイムリーな収益情報把握と早期アクションができます

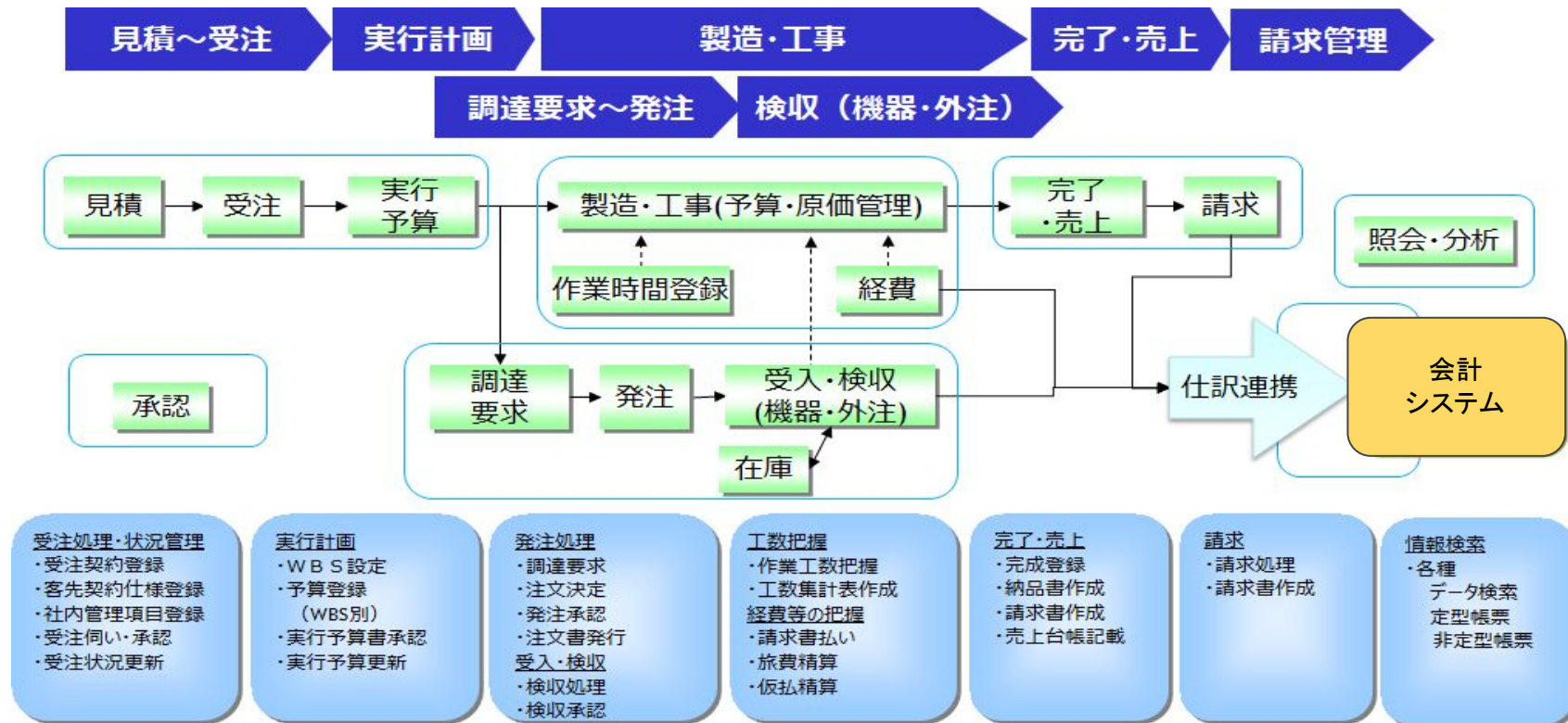


1. ActualPRO II の機能構成



1. ActualPRO II の業務範囲

ActualPRO II の業務処理の流れを表したものです

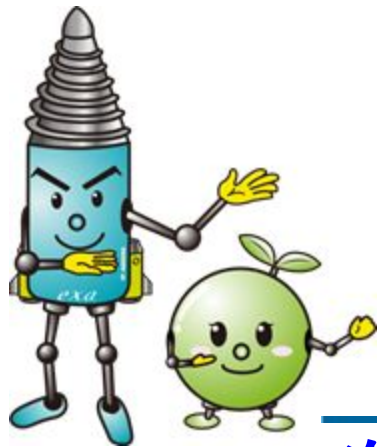


1. ActualPROⅡのユーザー様

●ActualPROをご採用いただいた主な企業様とその事業内容

会社	地域	事業内容
い社	神奈川県	ガス配管・空調・衛生設備工事の設計・施工
ろ社	神奈川県	機械・プラント設備の製作・据付・メンテナンス
は社	神奈川県	各種サービス関連事業
に社	神奈川県	製鉄関連部品の海外販売・技術供与
ほ社	神奈川県	土木・橋梁等の計画・施工・コンサル
へ社	神奈川県	化学プラント等の開発・実施・コンサル
と社	神奈川県	環境施設の運転
ち社	静岡県	建築鉄骨・沿岸構造物・橋梁等の製作・据付
り社	静岡県	工場設備メンテナンス、設備エンジニアリング
ぬ社	三重県	電気・機械装置の設計・製作・据付・保守
る社	三重県	各種サービス関連事業
を社	三重県	橋梁の製作工事
わ社	三重県	各種情報処理サービス
か社	宮城県	各種船舶の修繕・検査、各種鋼構造物の製作・据付
よ社	神奈川県	ビル管理、緑化、環境分析、設備工事・防災点検ほか
た社	神奈川県	特殊産業機械製造

会社	地域	事業内容
れ社	神奈川県	各種情報処理サービス
そ社	東京都	情報通信インフラ、設計、製作、据付
つ社	東京都	知財・技術情報、試験・分析
ね社	千葉県	橋梁、鉄構物の設計、製作、組立、据付
な社	東京都	製鉄設備機械の販売、エンジニアリングサービス
ら社	神奈川県	産業廃棄物処理業
む社	東京都	ガス本支管工事、ガス設備工事、電気通信事業ほか
う社	神奈川県	生活・環境総合サービス
み社	東京都	Web系パッケージ開発、販売
の社	千葉県	鉄骨・橋梁等製作
お社	宮城県	各種情報処理サービス
く社	東京都	タンク・プラント設備
や社	香川県	造船用部材加工、鉄骨・鉄筋建設
ま社	神奈川県	素形材事業、エンジニアリング事業、建材事業
け社	広島県	プラント保守工事、車両整備、車両/機器リース



2.

次世代の*ActualPRO*に向けて

解決すべきテーマと目標、計画して開始！

2. パッケージが抱えていたテーマ

ActualPRO II® は商標登録をしたパッケージです
ご紹介・ご導入のお客様よりご質問をいただきました

①稼働環境のバージョンアップ追従やEOLの対応

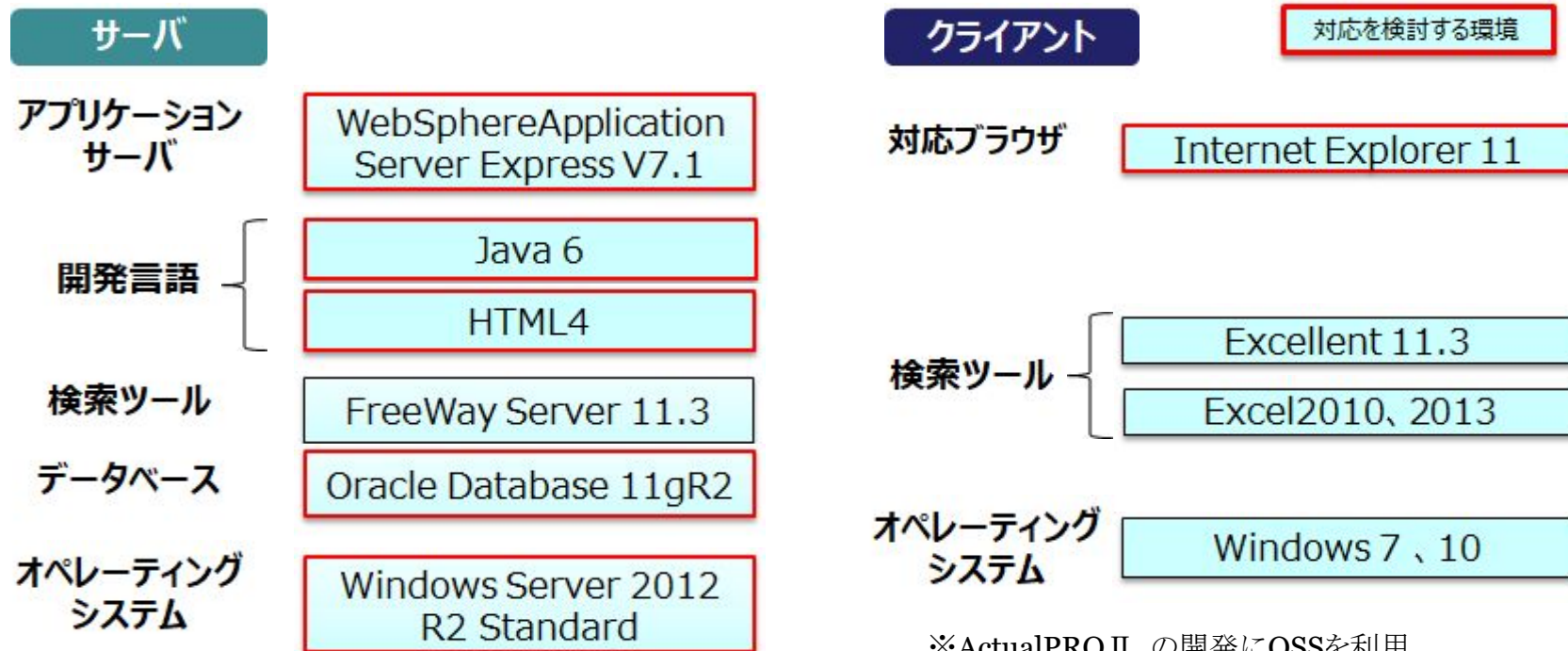
(EOL: エンド・オブ・ライフ)

②オンプレミスから、クラウドへの対応

③機能の有無確認と充足要望

2. 各テーマへの対応

①稼働環境のバージョンアップ追随やEOLの対応



※ActualPRO II[®]の開発にOSSを利用
1.Hibernate 2.POI 3.iText 4.Spring

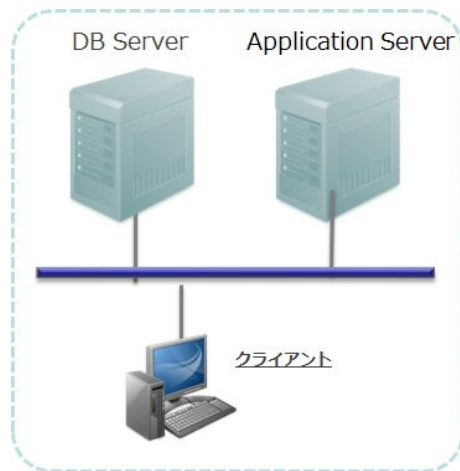
2. 各テーマへの対応

② オンプレミスから、クラウドへの対応

サーバ

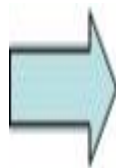
稼働環境

オンプレミス



対応を検討する環境

クラウド

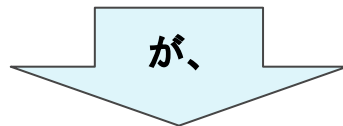


稼働環境は所有するものから、
借りるものへと変りつつある
オンプレミスからクラウドへの要望が多く
なっていました

2. 各テーマへの対応

③機能の有無確認と充足要望

財管一致の基幹業務システムとして
入力画面、帳票ツールを装備したオールインワン構成のシステムです

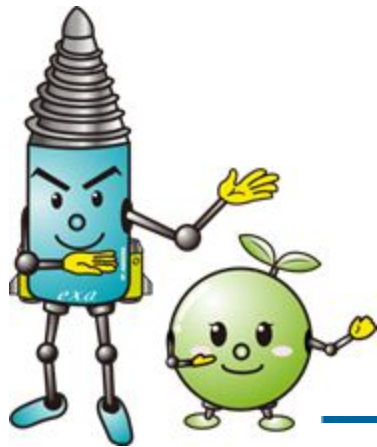


1. 既に存在する多くの周辺システムのデータは二重登録ではなく、システム間で自動連携する仕組みが望まれた
2. 周辺のシステムや業務機能を、システムに取り込む要請があった
(予算管理、見込案件管理、見積作成、与信管理、ワークフロー、他)

2. 各テーマへの対応 計画

各テーマの対応を計画しました

2018年	4月	5月	6月	7月	8月	9月
マイルストーン	キック オフ 			クラウド 契約 		報告と 次局面計画 
Cloudや 開発環境の 検討	Cloud選択			方針	トライアル	
	ブラウザ検討					
	Java/開発環境検討					
ActualPROⅢ (仮)開発の企 画	要求分析			要件定義		
周辺	BIツール検討			トライアル		

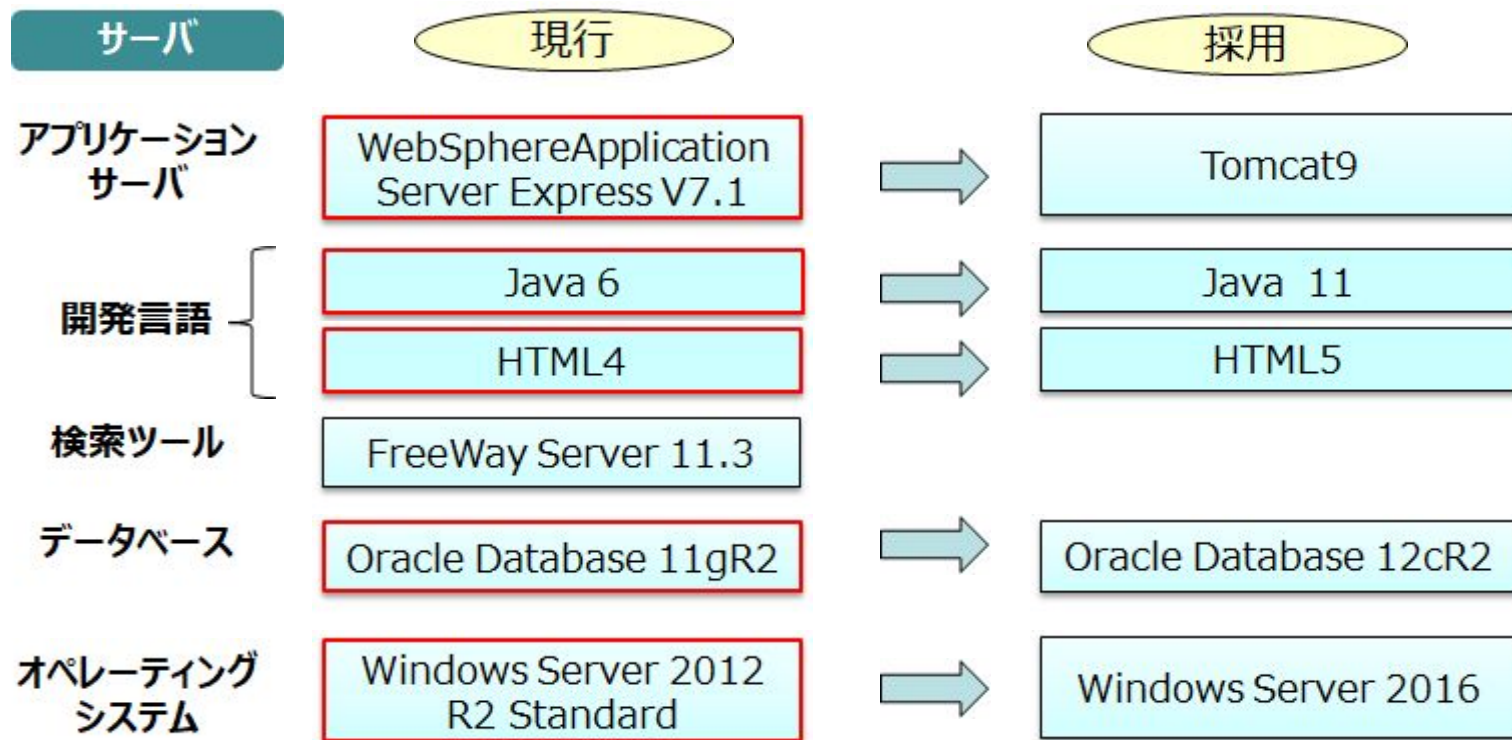


3.

プロジェクト開始、そして……

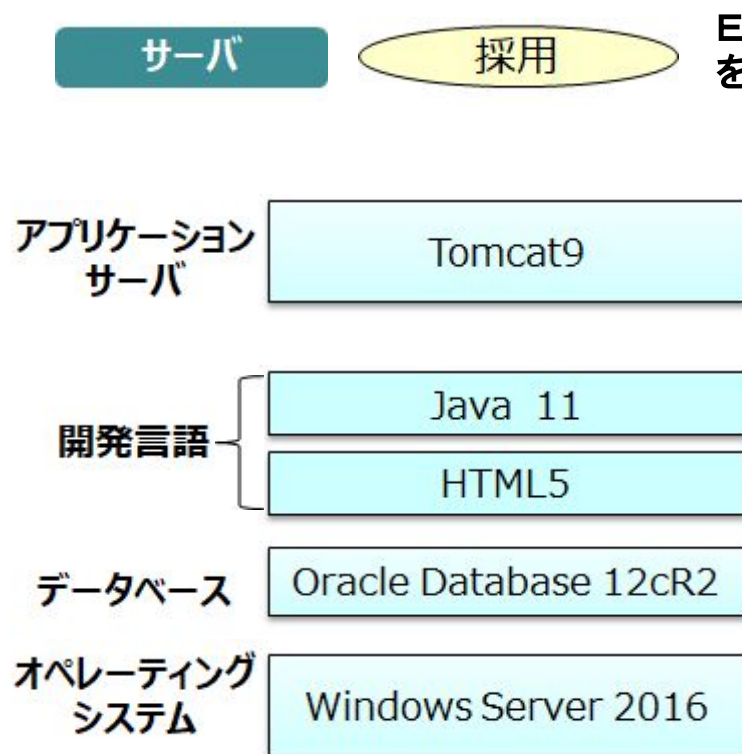
稼働環境改善、クラウドへ、機能充足

3. 稼働環境改善 EOLの対応について(1/2)



3. 稼働環境改善

EOLの対応について (2/2)



EOL対応は原則として後継の最新バージョンで検証し、稼働を目指しました



Oracle WebLogic、IBM WebSphere、RedHat JBoss、Jetty、WildFly、IIS(Internet Information Services)、GlassFish、Apache Struts、**Apache Tomcat**
⇒ **ActualPRO II**と同じフレームワークで、**Tomcatの利用実績があるため採用した**



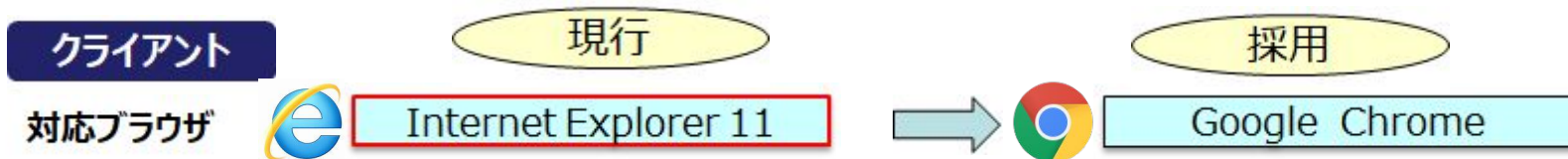
標準サポートはOracle JDK8(2022/10)、**Oracle JDK11(2023/09)**、Adopt JDK11(2022/09)
Java提供元の違いによる機能的な差は見受けられず



2014/10/28に**HTML5がW3C勧告となる**
⇒ Webのルールを決める団体が、HTML5使用を正式に推奨
⇒ HTML4が非標準(旧標準)となり今後は対応ブラウザやデバイスの激減が想定される

3. 稼働環境改善

ブラウザの選定と対応方針 (1/3)



ブラウザのシェア1位が Google Chrome であり優先対応を決定しました

現行システムでGoogle Chromeによる動作検証を実施し、修正すべき箇所を洗い出しました

	CSS対応	HTML5対応	Chrome対応
HTML5が推奨されているが、HTML4で作られている		○	
デザインの崩れが発生する	○		○
Javascriptエラーが発生する			○

CSS (Cascading Style Sheets
カスケーディング・スタイル・シート)

3. 稼働環境改善

ブラウザの選定と対応方針 (2/3)

CSSフレームワークの選定

	Bulma	Bootstrap4	Materialize
確認サイト	https://bulma.io/	https://getbootstrap.com/	https://materializecss.com/
ライセンス	MIT License	MIT License	MIT License
レスポンシブ対応	○	○	○
アクセシビリティ配慮	○	○	○
学習の容易性	○	△	△
シェア	△	○	△
Javascript依存性	依存無	jquery必須、専用JS必須	専用JS必須

学習の容易性

:(コードの複雑性、カタログ、サンプルの多さ)

Javascript依存が無い
ため、既存のクライアント機能に
影響がないことが保証できる

3. 稼働環境改善

ブラウザの選定と対応方針 (3/3)

ブラウザを選定し、改修方法を検討
決定した改修の方針は以下のとおり

■方針

【Chrome検証課題項目対応】

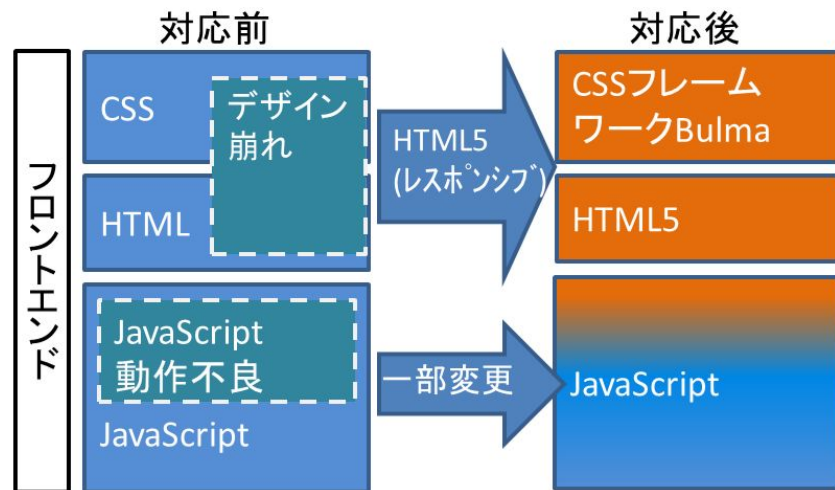
・【現行ソリューションの基本方針は踏襲】

- 現行のフレームワークは改修しない
- Javascriptライブラリを使用しない

【デザイン崩れなどを包括的に対応】

- CSSフレームワークを使用する
- CSS Frameworkは**Bulma**を採用する

- ボタン、フォームなどのUIパーツがある
- レスポンシブデザインに対応しやすい
- Javascriptライブラリに依存しない
- 現行のJavascriptと競合を避けられる



3. 稼働環境改善

Java11への対応

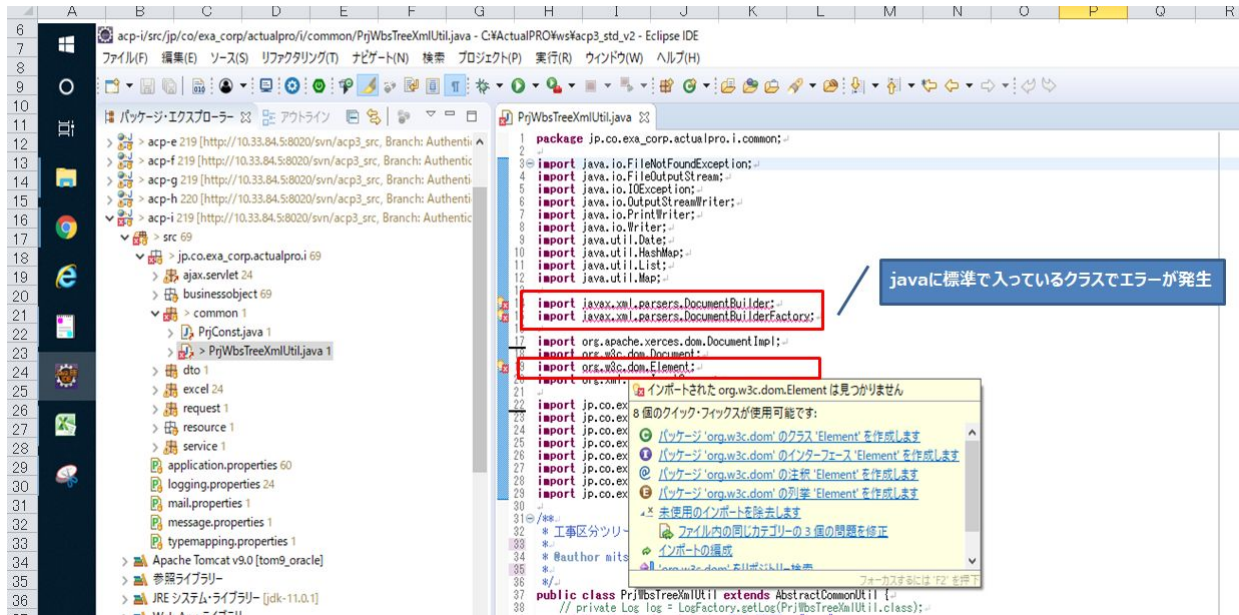
◆Java9から導入されたモジュールシステムによりコンパイルエラーが発生

現象: Java SDKに入っているクラスがコンパイルエラーとなる (org.w3c.dom)

原因: サードパーティライブラリの依存関係により取得されたライブラリにも SDKと重複する

org.w3c.domのパッケージが存在したため、Eclipseのコンパイラでエラーとなった

対応:ライブラリの読込の順番を javaシステムライブラリを優先にした



3. 稼働環境改善 Java11への対応

◆Java6からJava11への変更で使えなくなったクラス

当パッケージに影響のあったクラス

クラス	変更バージョン	対応	補足
CharToByteConverter	Java8で削除	コーディング変更 (StringクラスのgetBytes)	入力値をバイトに変換し文字列長の検証に使用
JAXBException	Java9で削除	JAXBライブラリを個別取得	ACPが利用しているサードパーティライブラリが使用
Perl5Util	OSSライブラリjakarta-oroの活動停止(2010/09/01)	コーディング変更 (Java8から実装されたPattern、Matcherクラスを使用)	正規表現の処理で使用

3. 稼働環境改善 Google Chrome、HTML5、Java11構成への対応

検証方法

操作マニュアルを参照に「IE」と「Chrome」でのシステムの動作及びレイアウトの差異を調査し、課題を抽出
原因、解決方法調査は、各ブラウザのデベロッパーツールを使用し確認

No	現 象	出現画面数/20検証数	
1).	Gridヘッダ、明細項目のレイアウト位置、幅がずれて表示される	13	
2).	ヘッダー、フッターの表示位置が固定されない	6	
3).	マスタ検索アイコンをクリックすると、JavaScriptエラーになる	10	
4).	項目内容の位置、幅がずれて表示される	8	
5).	非活性項目の表示色が活性項目と同じになる	5	
6).	メッセージウィンドウの表示レイアウトが異なる	3	
7).	ポップアップメニューの表示位置が異なる	1	
8).	入力項目(金額)をフォーカスを当てると、JavaScriptエラーになる	7	
9).	ファイルアップロードのレイアウトに差異があり、実行すると JavaScriptエラーになる	1	
10).	月次確定処理のジョブ実行を指示すると、JavaScriptエラーになる	1	

3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象1).

現象 Gridヘッダ、明細項目のレイアウト位置、幅がずれて表示される

Gridヘッダの表示位置

原因 IEでシステムを動作させる場合に条件付きコメントで「grid_IE7.css」を使用しているため

対策 「grid_IE7.cssのdataGridHeaderクラス」を任意のcssに追加する

Gridヘッダの表示幅、明細項目の表示位置

原因 <col>要素のalign属性、width属性等が廃止になっているため

対策 cssに表示幅、位置等を定義するクラスを追加し、各要素に設定する



月次処理 - Google Chrome

160.14.92.196:9080/acp-h/control/gen1307keijoyim=201710

SENO	工事番号	払出部署	仕訳帳種	仕訳時間	単価(¥)	払出金額(¥)	単価(C)	払出金額(C)	社員番号	エラーメッセージ
1	ZOMITUMORI	20201	01	2.00	0	0	0	0	eigyol	(40)固定部門費単価エラーです
2	ZOMITUMORI	20201	01	2.00	0	0	0	0	eigyol	(40)固定部門費単価エラーです

【 工数仕訳実績エラー 】



月次処理 - Windows Internet Explorer

http://160.14.92.196:9080/acp-h/control/gen1307keijoyim=201710

SENO	工事番号	払出部署	仕訳帳種	仕訳時間	単価(¥)	払出金額(¥)	単価(C)	払出金額(C)	社員番号	エラーメッセージ
1	ZOMITUMORI	20201	01	2.00	0	0	0	0	eigyol	(40)固定部門費単価エラーです
2	ZOMITUMORI	20201	01	2.00	0	0	0	0	eigyol	(40)固定部門費単価エラーです

【 工数仕訳実績エラー 】

3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象2).

現象 ヘッダー、フッターの表示位置が固定さない

原因 JavaScriptでIE専用の機能である「document.all」を使用している

対策 getElementByTagName、getElementByIdを使用する

document.all ⇒ document.getElementsByTagName('*'))

document.all("auto_height_list").style.height = 120

⇒ document.getElementById('auto_height_list').style.height = 120 + 'px';



3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象3).

現象 マスタ検索アイコンをクリックすると、JavaScriptエラーになる

原因 JavaScriptでIE専用の機能である「window.showModalDialog」を使用していた

対策 「window.open」等を駆使しモーダル用のウィンドウ表示
処理を独自に実装する

参考:<https://qiita.com/bassyaroo/items/6566d06e27fdd970dc01>

勘定年月: 2017/10 【 受注情報一覧 】

検索条件

受注番号: 受注名称:

受注開始日: 商品名:

責任部署: 10100 営業部門 

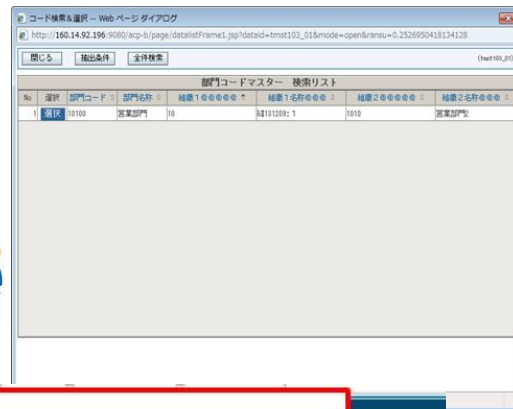
注文主:

備考:

会社:

検索アイコンをクリック

No	選択	受注番号	受注開始日	受注名称	売上基準	責任部署	注文主
1	☒	333	2012/03/24	システム開発3マックスマックスマックスマックスマックス	完工基準	営業部門	(株)A1194基編 略称 A1194基編部署名欄
2	☒	97453008	2012/07/01	出来高のコピー元になるオーダー	出来高基準	営業部門	(株)A1350
3	☒	97453011	2012/07/10	進行基準のコピー元になるオーダー	進行基準	営業部門	(株)A1350
4	☒	97453012	2012/07/10	出来高のコピー元になるオーダー	出来高基準	営業部門	(株)A1350



3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象5).

現象 非活性項目の表示色が活性項目と同じになる

ボタンの場合

原因 cssでcolorが設定されている

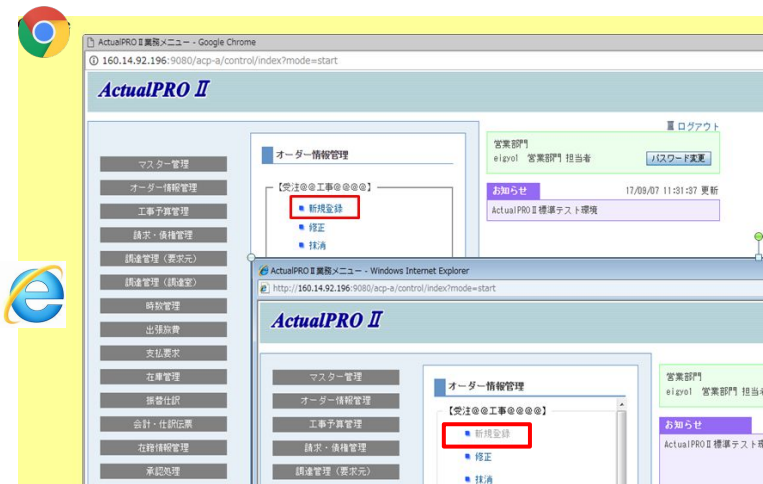
対策 各ボタンに設定するcssのクラスのcolor属性を外す

リンクの場合

原因 Chromeでは<a>タグに対するdisabledが適用されない

対策 CSSを独自に定義して見た目を変更する

参考: <https://st40.xyz/one-run/article/365/>



3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象6).

現象 ポップアップメニューの表示位置が異なる

原因 popup.style.top、popup.style.leftについて設定が不足している

対策 値設定時に"px"を付与する

※横展開が必要

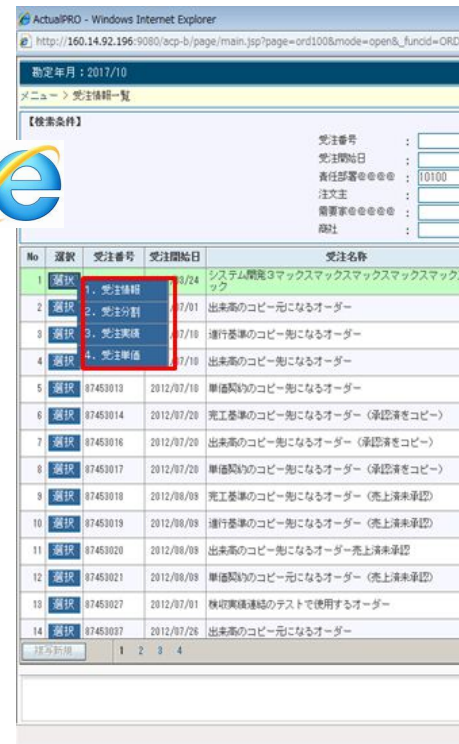
popup.style.left=objParent.offsetLeft

+ obj.offsetLeft + obj.offsetWidth;

⇒ ~ + obj.offsetWidth + 'px';

popup.style.top = t;

= t + 'px';



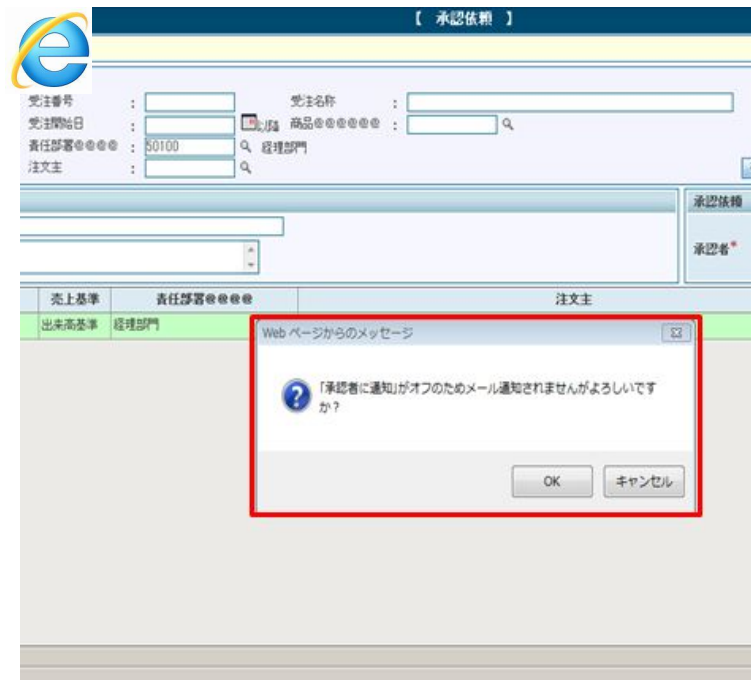
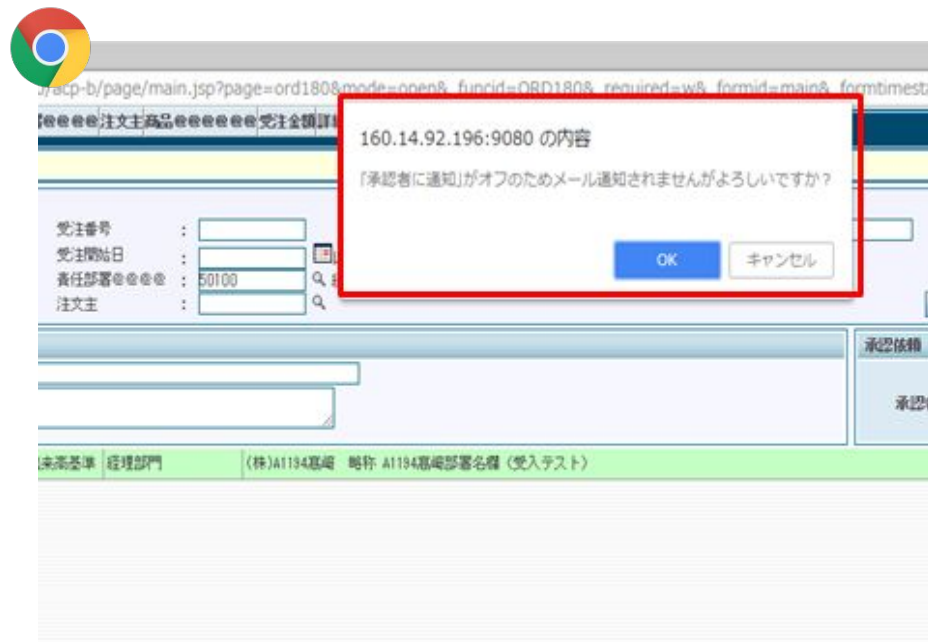
3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象7).

現象 メッセージウィンドウの表示レイアウトが異なる

原因 ブラウザの仕様により、alertの表示レイアウトが異なる

対策 ブラウザの違いによるポップアップデザインの差異を許容することとする



3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象8).

現象 入力項目(金額)にフォーカスを当てると、JavaScriptエラーになる

原因 createTextRangeのサポートがない

対策 使い勝手を再検討しフォーカス時にカーソルを右に寄せる処理をなくす



160.14.92.196:9080 の内容

JavaScriptエラーです:

エラー内容: Uncaught TypeError: obj.createTextRange is not a function

エラーファイル名: http://160.14.92.196:9080/acp-b/js/common.js

エラー行数: 753

OK

入力項目をクリック

3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象9).

現象 ファイルアップロードのレイアウトに差異がある、また、実行すると JavaScriptエラーになる

原因 ブラウザの仕様により、表示レイアウトが異なる。

type="file"のname属性に対してgetElementByIdで要素を取得しようとしていた

対策 getElementByIdをgetElementsByTagNameに修正

または、type="file"のname属性をID属性に修正する

The image illustrates a compatibility issue between a web application and Google Chrome. It is divided into two main sections, each showing a browser window and a corresponding action.

Left Section (Google Chrome):

- The browser window shows a file upload interface with a warning message: "ご注意" (Notice). The message states that file uploads are limited to 10MB and that the file name must be in Japanese characters.
- A red box highlights the "送信" (Send) button.
- An arrow points down to a screenshot of the same interface where a JavaScript error is displayed. The error message is: "JavaScriptエラーです: エラー内容: Uncaught TypeError: Cannot read property 'value' of null". The error details include the file name and the URL.

Right Section (Internet Explorer):

- The browser window shows the same file upload interface with the same warning message.
- A red box highlights the "送信" (Send) button.
- An arrow points down to a screenshot of the same interface where no error is displayed, and the file upload process appears to be successful.

3. 稼働環境改善

Google Chromeへの対応 現象10).

現象 月次確定処理のジョブ実行を指示すると、JavaScriptエラーになる

原因 type="file"の名属性に対してgetElementByIdで要素を取得しようとしていた

対策 getElementByIdをgetElementsByTagNameに修正

または、type="file"の名属性をID属性に修正する



3. 稼働環境改善 クラウドへ(検討するPublic Cloud Serviceを選定)

稼働環境

オンプレミス



クラウド

検討対象はGartnerのIaaS, DBMSのMagic Quadrantで上位に位置するAWS, AzureとIBM Cloudとした



3. 稼働環境改善 クラウドへ（サービス選択）



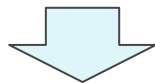
	AWS	Azure	IBM Cloud
国内のリージョン	東京 / 大阪ローカル	東日本 / 西日本	東京 (IaaSのみ)
閉域網接続	OK	OK	NG (IaaSのみ可能)
PaaS(AP)	AWS Elastic Beanstalk	Azure App Service	Cloud Foundry
DBaaS(Oracle)	RDS for Oracle	×	×
サポート対応時間	24時間年中無休(電話、チャット、メール)	24時間年中無休(電話、メール)	月曜AM7時-土曜AM9時※緊急 (24/365)
日本語対応	日本時間平日9:00-18:00 チャットサービスは7:00-23:00	日本時間平日9:00-17:30 重要度 Aについては 24時間365日	日本時間平日9:00-17:00
緊急度 / 初回応答時間	1.ビジネス影響大障害:1時間以内 2.発生中障害:4時間以内 3.障害/開発中の問合せ:12時間以内 4.通常問合せ/機能要望:24時間以内	1.事業に大きな影響:1時間以内 2.事業に部分的な影響:4時間以内 3.事業に軽微な影響:8 営業時間以内	1.サービスダウン:1時間以内 2.著しい事業影響:2時間以内 3.軽度の事業影響:4時間以内 4.最小の事業影響(QA):8時間以内

3. 稼働環境改善 クラウドへ（環境対応）

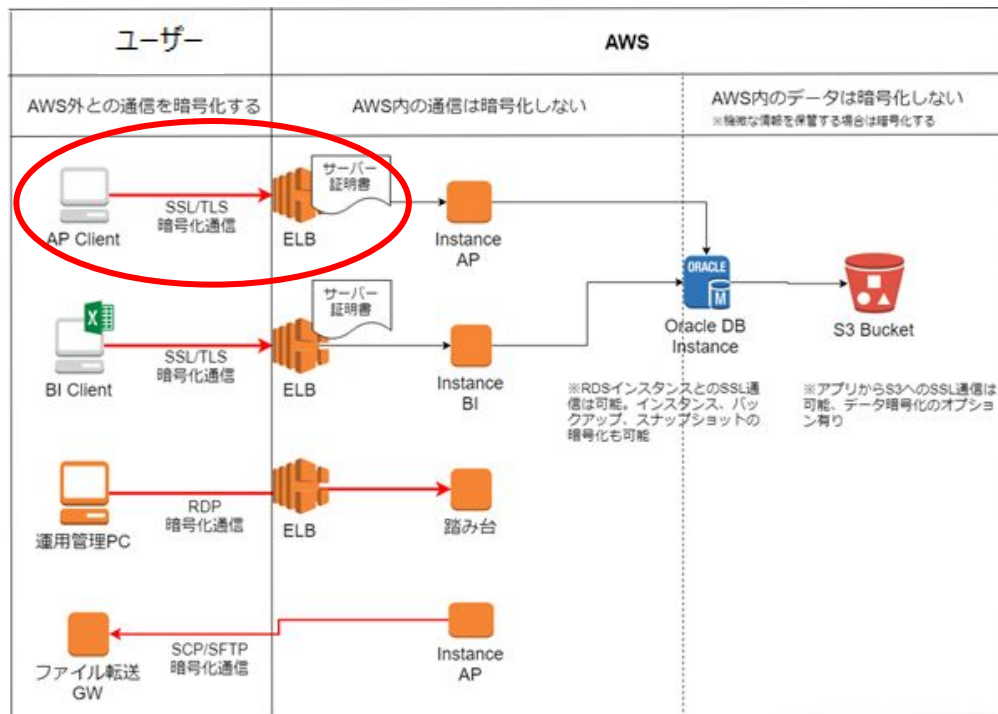
1). Webアプリケーションプログラムは特に修正はせずとも動作する

2). セキュリティ対応の必要性

webアプリケーションの通信をセキュアにするために SSL/TLSの対応が必要である



ロードバランサー(ELB)を配置し
通信の暗号化を実現した



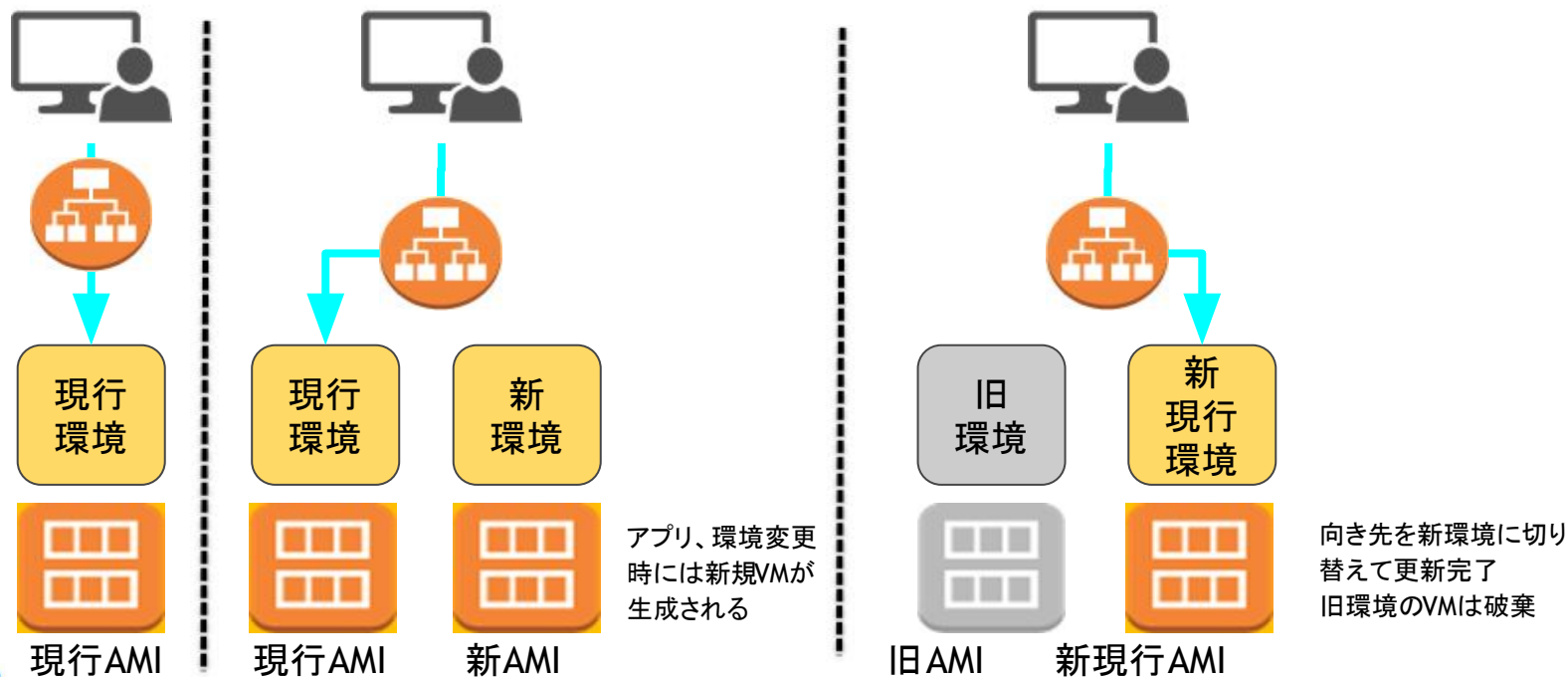
3. 稼働環境改善 クラウドへ（環境対応）

3). APサーバーに情報保持をしない設計への対応 (1/2)

クラウド環境の設定変更では下記運用が一般的である

⇒ 環境にデータを持つと切替時にデータを失うケースが発生する

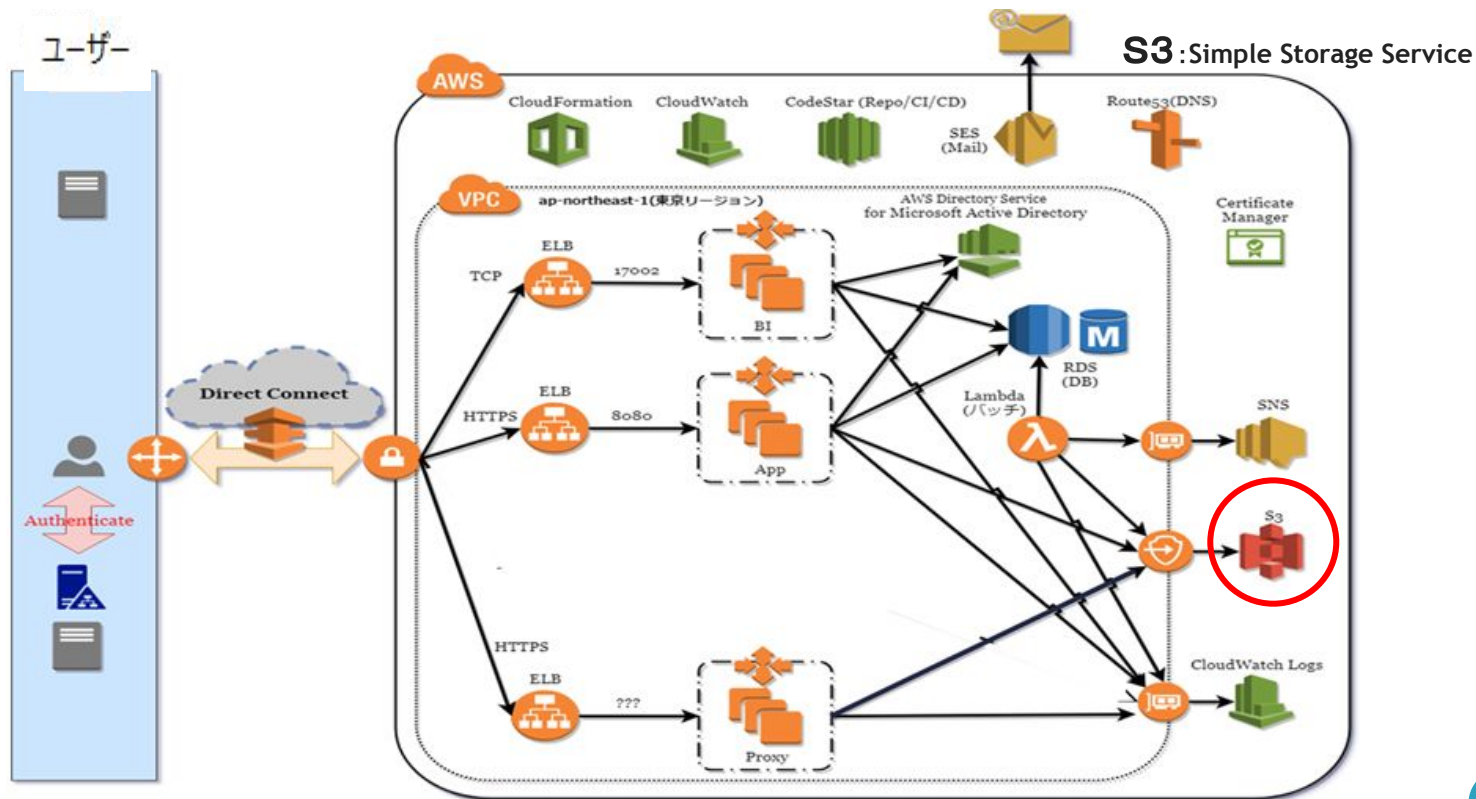
AMI : Amazon Machine Image



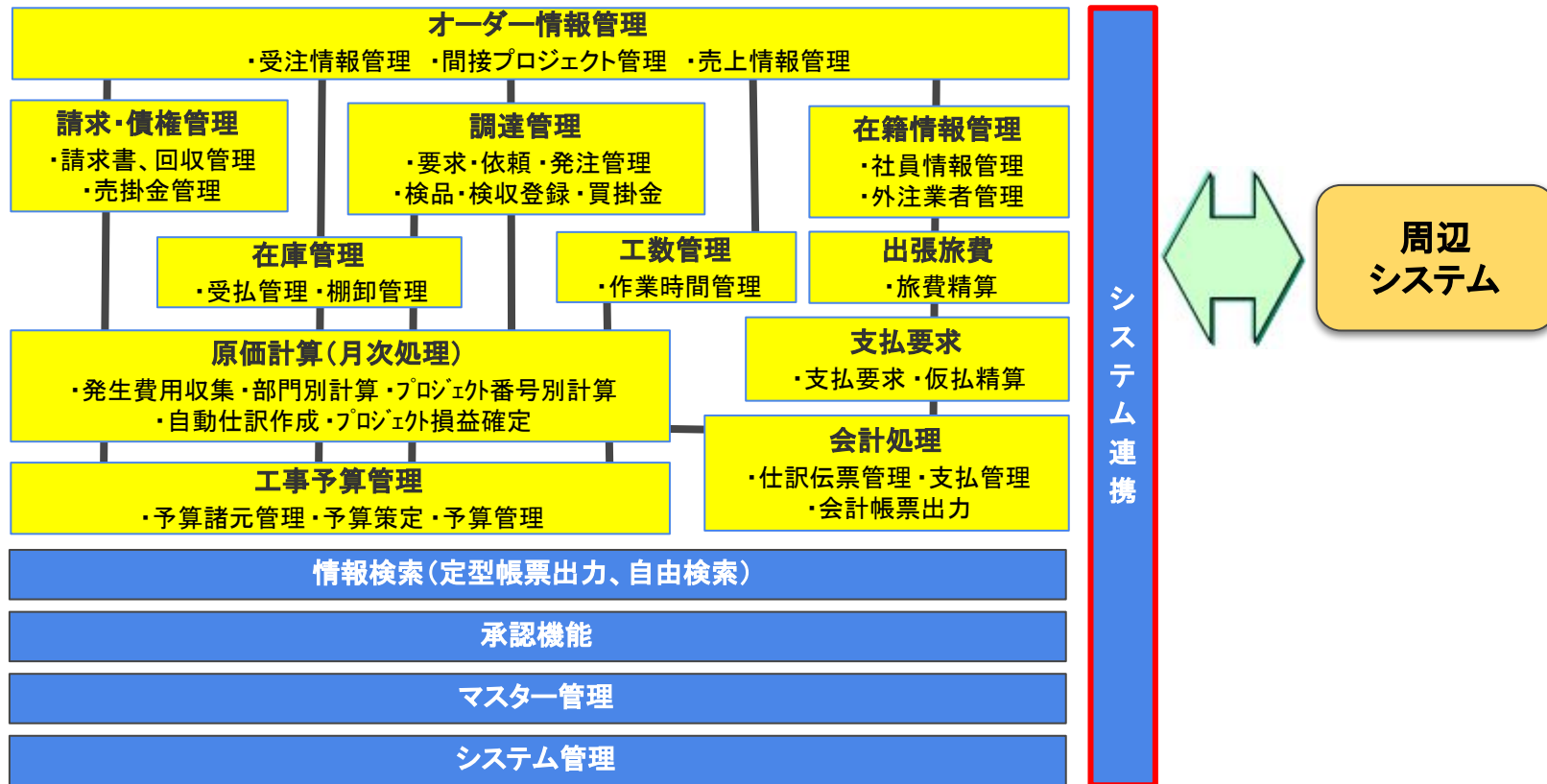
3. 稼働環境改善 クラウドへ（環境対応）

3). APサーバーに情報保持をしない設計への対応 (2/2)

クラウド上のファイルサーバーに相当する AWSのストレージサービスであるS3 に配置する

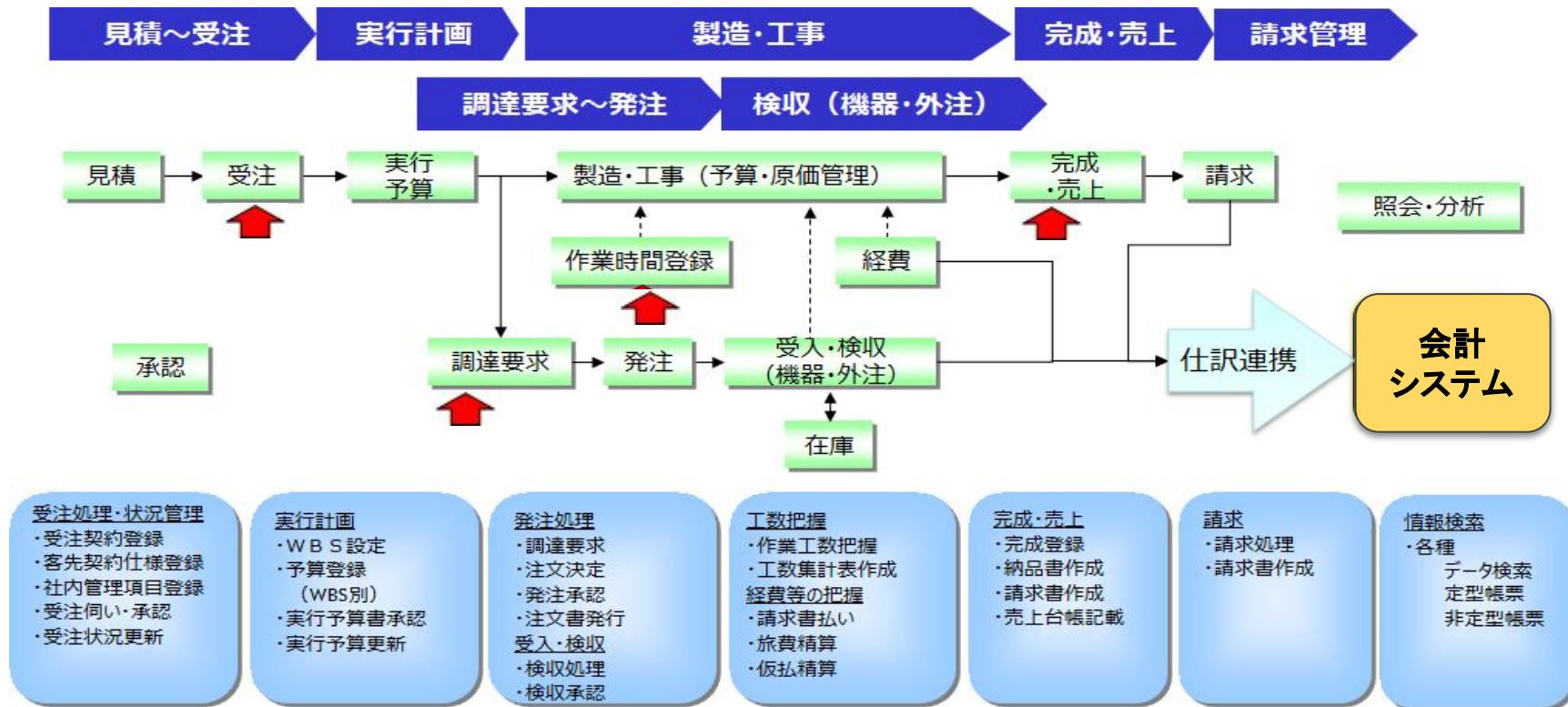


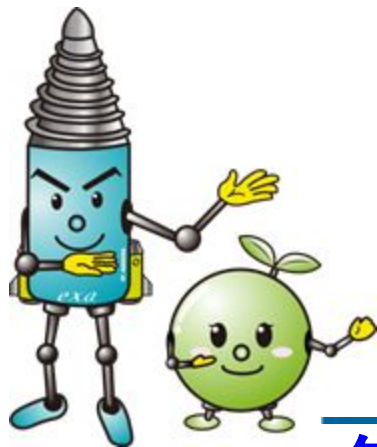
3. 機能充足



3. 機能充足 連携強化

受注、調達要求、売上の書式 (テンプレート)を装備 [印で示しています]





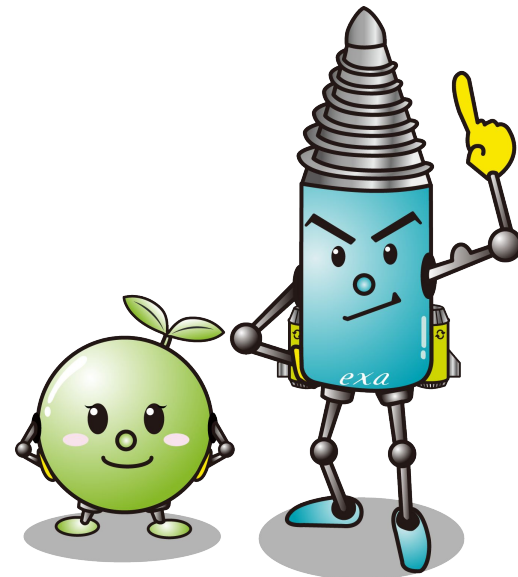
4.

乞うご期待

稼働イメージと次のステージへ。展開と発展

4. 展開

クラウドデビューに向けて対応した*ActualPRO*Ⅲ(仮)は
ファーストユーザーとして自社を選定し、
運用設計・データ連携構築などを含む「導入プロジェクト」を
並行して実施しています



4. 展開 導入プロジェクトの課題・狙い

目的

*ActualPRO*Ⅲ(仮)導入により、基幹システムを刷新する

現行システム状況

- ◆稼働中の業務アプリケーションは利用開始から0年以上経過したものもあり、かつ業務ごとに開発・導入されてたためシステム間連携が弱い

課題

- ◆システム毎に同じようなデータを入力している
(データ連携の弱さをマンパワーで補完している)
- ◆エビデンスの電子保管・保全が不十分である
(紙媒体使用や承認結果との整合性に不安あり)
- ◆維持・拡張の限界を迎えている
(管理部門の維持・拡張担当者のAvailabilityに依存する)
- ◆経営支援情報の提供に時間がかかる
(会計システムが締まらないと情報取得提供できない)
- ◆実行中案件の計画vs.実績評価はSI系のみであり、
物販・保守は完了時のみの評価である
- ◆稼働サーバー機の老朽化対応が迫る

狙い

- ◆ERPパッケージである *ActualPRO*Ⅲ(仮)を適用することにより、単なるアプリケーションの焼き直しではなく、業務改革を念頭に置いた新システムとなること
- ◆システム間での二重入力やマニュアル作成資料との整合性検証等の負荷削減、および文書の電子的な保管による整合性の維持・保全、アクセスの容易性の向上
- ◆リアルタイム経営支援(前日までの実績 / 見通しの翌日提供を目指す)
- ◆変更要望・機能追加に柔軟且つタイムリーな対応を目指す
- ◆BIツールの活用によりユーザー自身でデータ活用(分析・帳票作成等)できる環境を整備
- ◆与信から案件クローズまでの業務プロセスを通した E2E管理(計画vs.実績評価)の容易化
- ◆保守・機能拡張が困難な原価同環境からの脱却

4. 展開 期待効果(定性効果)

改善エリア	No	定性効果
業務標準化/効率化	1	見積審査～価格契約の <i>ActualPRO</i> Ⅲ(仮)内データ連携と契約データの親会社システムへの自動連係による作業効率化
	2	現行二重入力とそれに伴う整合性確認作業の最小化
	3	プロジェクト情報共有による問合せ低減、ローカルプロジェクトコードの廃止
	4	エクサ調達システムを取り込みによるリース処理、支払い業務効率化
BI機能の強化	5	柔軟なレポーティングツールによるタイムリーな管理レポートの提供（定型/非定型レポート）
コンプライアンス強化	6	承認イベントや承認関連ドキュメントの適正保存、リダンダンシーの排除
<i>ActualPRO</i> Ⅲ(仮) 販売促進	7	社内利用 Showcaseとして販売促進に貢献
既存システムの廃止	8	老朽化サーバ廃止による維持メンテナンス費用の削減

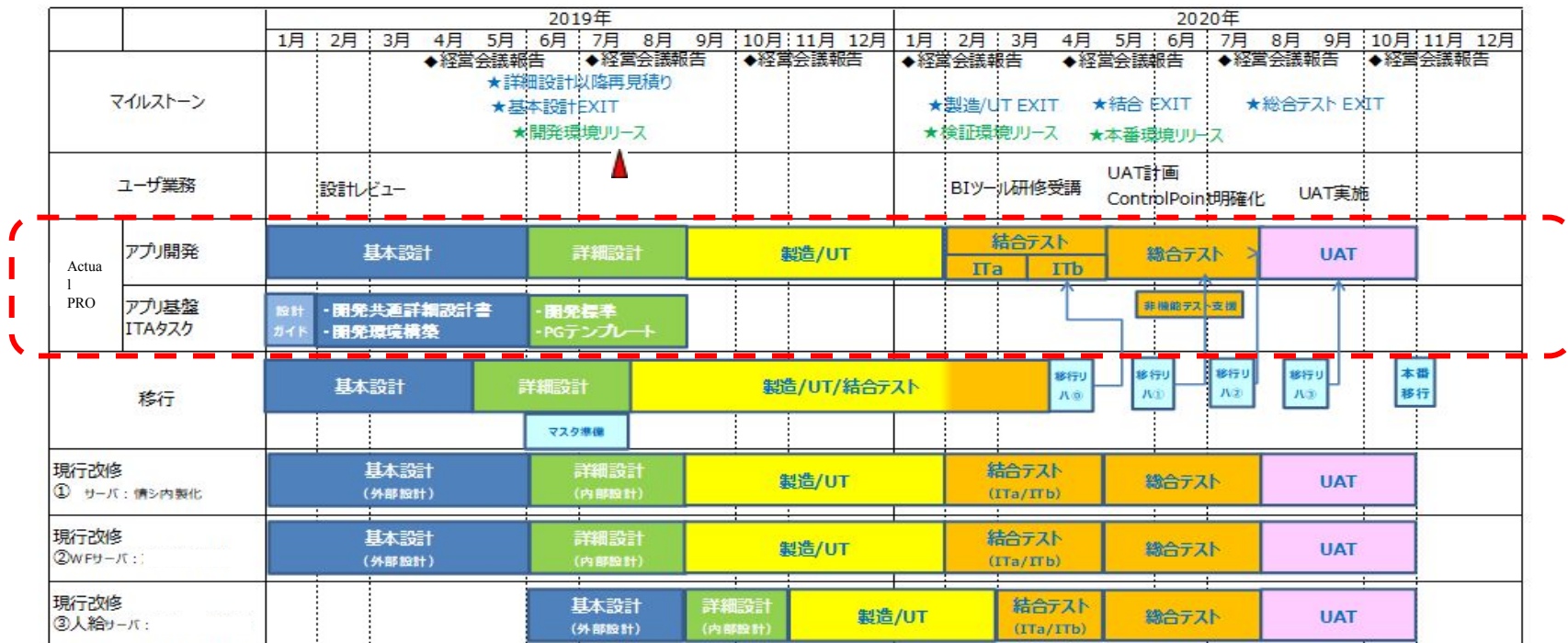
既存システムの取り扱い (S:System)

※継続運用 ①価格承認ワークフロー、②見積書作成 S、③旅費S、④立替払いS、⑤人事給与S、⑥勤怠・工数S、⑦フォーキャストS
廃止(吸収) ①モニタリングS、②調達リースS

4. 展開 スケジュール

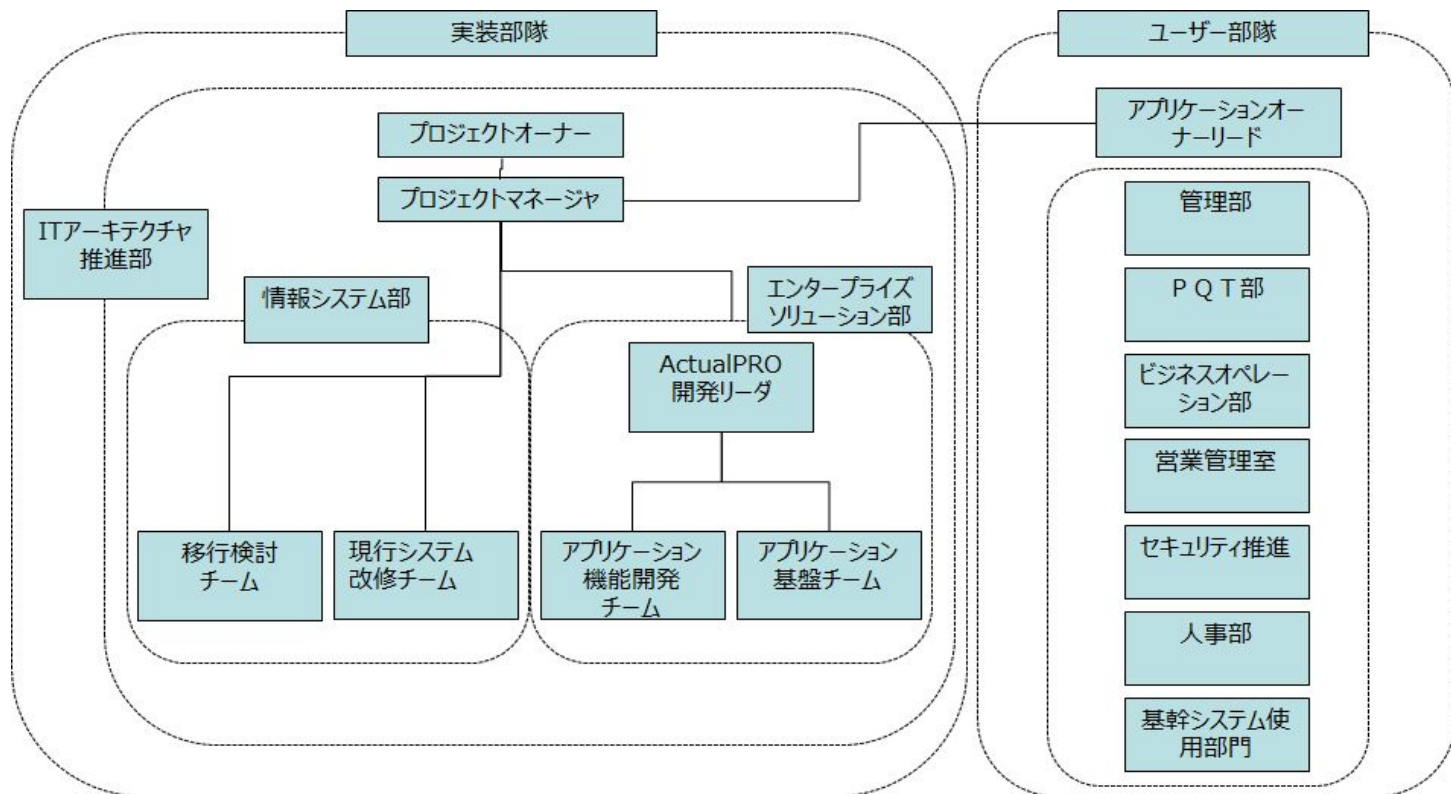
要求分析・要件定義を行い、新環境の選定・技術確認を実施してきました

また、自社を *ActualPRO*Ⅲ(仮)のユーザーとして選定し、並行して導入を実施しています



4. 展開 体制

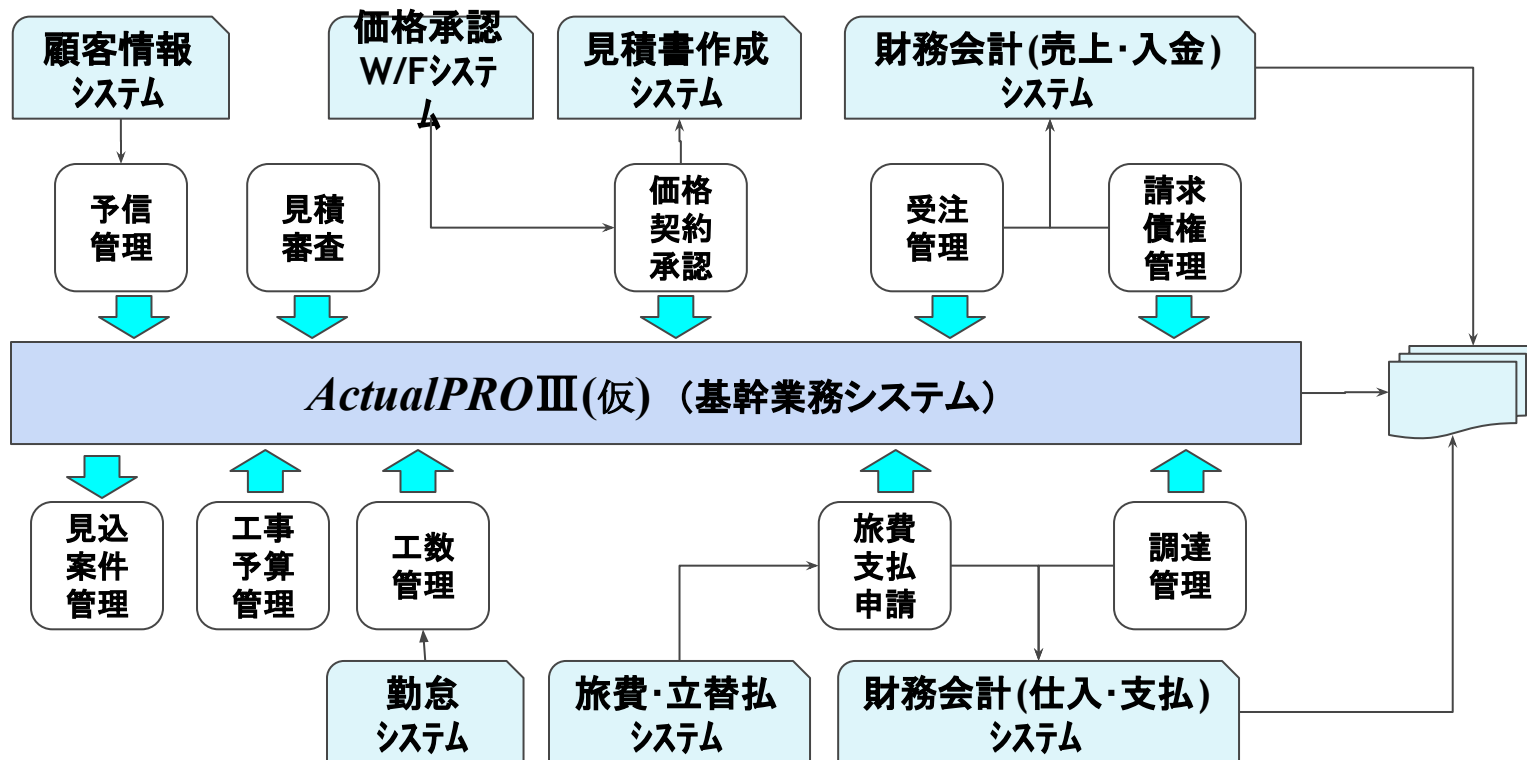
ActualPRO主管部署と既存システム主管部署を軸に、社内適用に向けて各ユーザー部門の協力をえて導入プロジェクトの体制を整えました



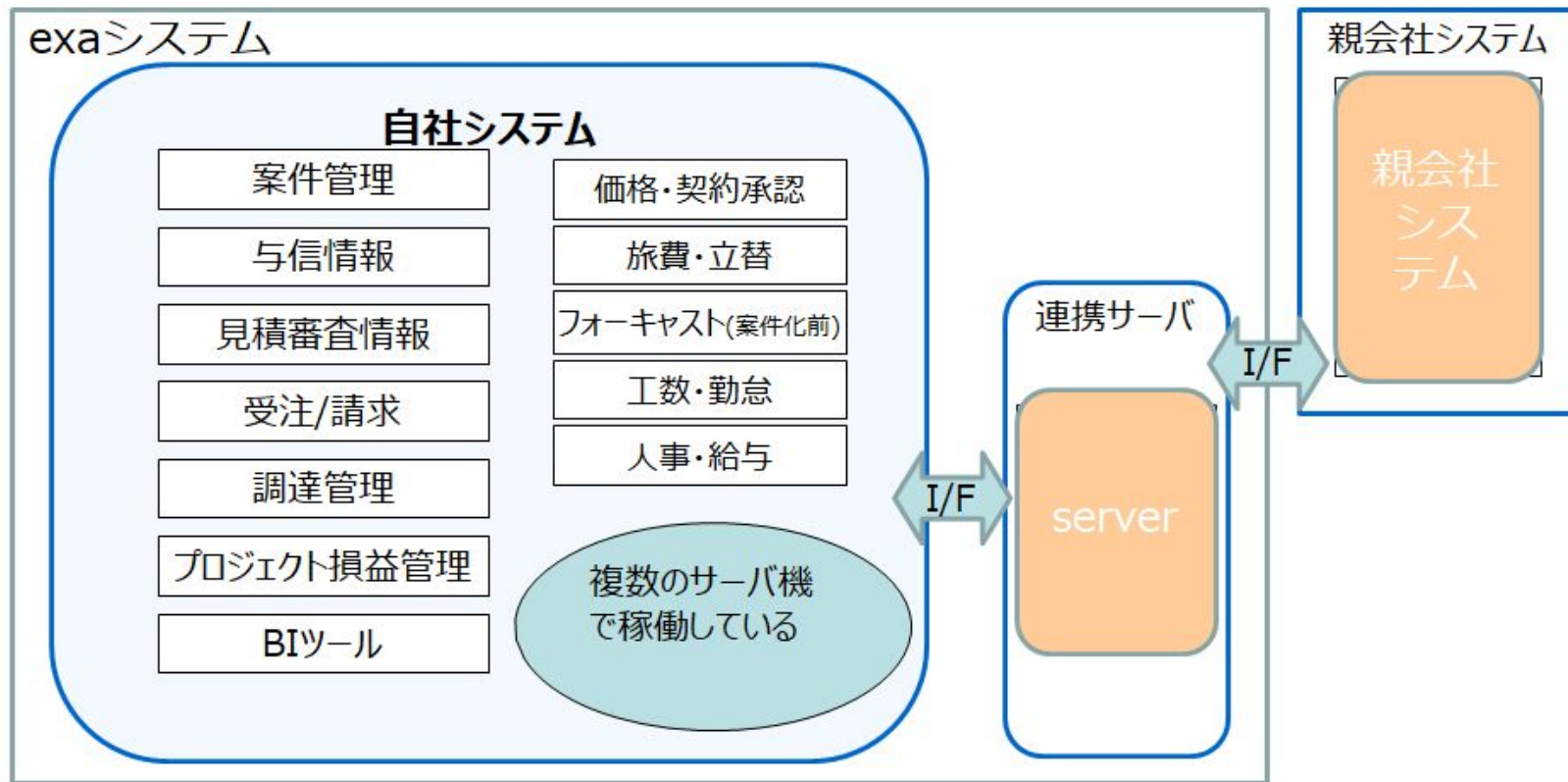
4. 展開

基幹システムと関連システムとの連携

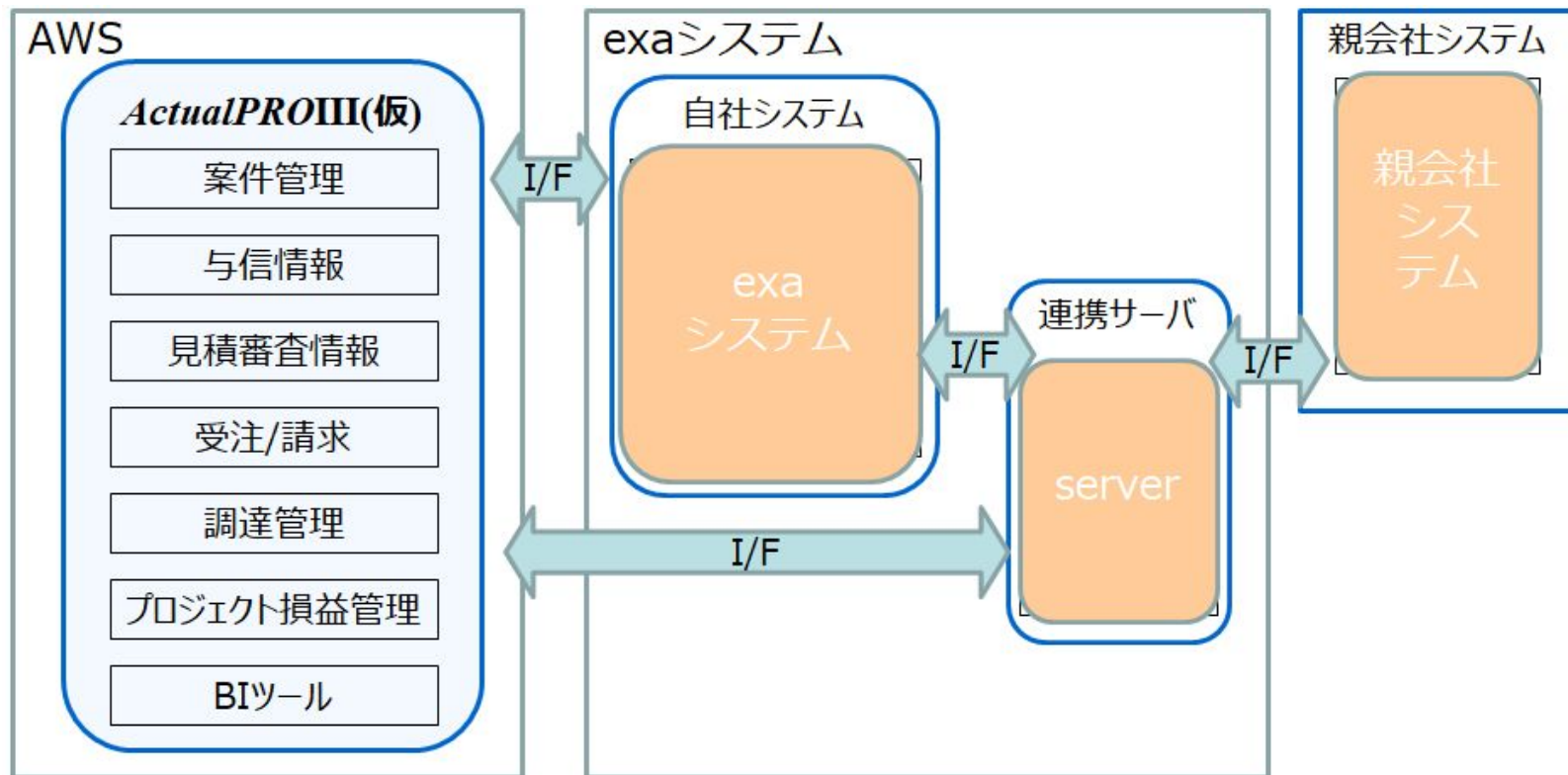
*ActualPROⅢ(仮)*を中核に据え、周辺既存システムとの連携を実現し情報の流れを整理しました



4. 稼働 現行の機能構成



4. 稼働 導入後



4. 発展

世の中のトレンドに追いつくために

マルチブラウザ対応 様々なプラットフォームで..

マルチデバイス対応 PCから解放

SaaS化

複数会社対応

機能拡張

さらなる機能装備

ex)

- ・各種バウチャーとしてのファイル添付機能の実装
- ・案件情報は見込案件の登録やコスト計画の取込に対応
- ・与信管理で案件審査内容の登録、顧客情報の充実
- ・調達依頼で事前取得見積を登録可能とする
- ・調達管理の領域を現行の購買・外注依頼にリース、保守契約も加え拡大する
- ・権限ロール設定の利便性向上を狙い、人単位からロール単位の登録可能とする



etc.

ご清聴いただき ありがとうございました

本資料中の会社名・製品名・サービスネームについて

- ・ActualPRO II[®]は、株式会社エクサ (EXA CORPORATION)の登録商標です
- ・ActualPRO II[®]はSAF(SuperStream Applications Family)登録の製品です
- ・ActualPRO IIIは開発コード名です
- ・その他すべての会社名・商品名・サービスネームは、それぞれ各社の商標または登録商標もしくはサービスマークです

